

執筆者一覧

おことわり

編集作業仕上げ直前になって、未着だったり、お願いし忘れていたり、どこかに紛れ込んでしまっている筆者近況があることに気づきました。発行日や編集作業日を考えると、ご連絡して待つ時間がありませんでした。

連載執筆者ばかりですので、プロフィールは前号のモノが用意できましたが、一部の方の執筆者一覧に不備があるのをお許し下さい。次号は必ず確認して、掲載させていただきます。（だん）

ニシカワ ユリ

いくつかの学校で、対人援助職養成に携わっている者です。先日、対人援助学会で人生初のポスター発表をいたしました。ポスター発表というのは非常に大変なものなだと身に染みましたが、それに見合うくらいに面白いものだとすることも解りました。発表を聞いて下さった方々、意見を下さった方々、本当にありがとうございました。ご意見ご感想のメール、お待ちしております。
y_n_oiw@yaho.co.jp

ムラモト クニコ

10月30日に女性ライフサイクル研究所20周年イベントを開催しました。開設当時の映像を見たり、全国から駆けつけてくれた初期の頃からの仲間たちと久しぶりに会い、また社会的起業家の志についての楽しい鼎談やオマケのピアノコンサートをしたりして、暖かく充実した幸せな1日でした。その一方、ぼやぼやしているうちに、あっという間に21年目がくるぞと気づき、そろそろ夜を明けさせなければ。

ダン シロウ

編集後記にたっぷり。

チバ アキオ

編集後記にたっぷり

タケナカ タカフミ

新登場。編集後記欄に紹介有り。

サトウ タツヤ

東京都立大学人文学部卒。博士（文学）。立命館大学文学部教授。日本質的心理学会事務局長、『パーソナリティ研究』・『Culture and Psychology』などの編集委員を務める。立命館大学の「生存学創成拠点」、「法と心理学研究拠点の創成」で研究活動に従事。専門は文化心理学・質的心理学・心理学史。医療・経済・教育など現実の社会問題と心理学の接点を扱う社会心理学研究を目指す。著書・論文多数。主著として単著の『日本における心理学の受容と展開』北大路書房(2002)、単編著『TEMではじめる質的研究』誠信書房(2009)など。

オカダ リュウスケ

広島で子どもの精神科34年。いろいろ兼務しているが、気持はずっと児童相談所にある。そこは精神医学の片隅に位置する児童精神医学のさらに辺境の地。何度も途中下車をしかけたが、結局、終着駅がぼんやり見えるところまで来た。駅を降りて雨が降っていなければ、今度はあてもなく歩いてみようと思う。

週刊誌が大手新聞に掲載する「まつりごとのあらさがし」の見出しに、毎週、いらだっている。多くの人が、買わずに読んだ気になって刷り込まれるんじゃないか、それが内閣支持率の低下に表れてるんじゃないか、それによって政治が目先のことと人気取りに四苦八苦してるんじゃないか、週刊誌はそれをあげつらってまた大手新聞社の広告の見出しにして、結局、短命内閣を量産しているんじゃないか……。週刊誌のリードで、成熟を待たずに政治を虐待する日本。いま、かっこよくて勇ましくて見栄えのするのが出てきたら、一気にもってかれる気がする。

ウラタ マサオ

京都芸術大学で保育士養成科目の指導を行う傍ら、中学校のスクールソーシャルワーカーとして、教育現場へも出ています。アメリカなどでは長い歴史があるスクールソーシャルワーカーですが、日本での歴史は今しまったばかりです。本誌拙稿では、学校教育現場で外部の専門職が果たす役割や課題、可能性について綴っています。どうぞ、よろしくお願いたします。

ダン アソブ

採用支援の仕事で上海に行きました。中国で事業展開する某社の海外事業統括本部長へのインタビューが目的です。彼は日本以外の場所で働いて14年目になるそうです。立ち上げ期の話から尖閣問題の見立てまで、たくさん話を聞きましたが、その中で印象的だったのが「政府のサポートが皆無の中でこれだけ海外事業を頑張っているのは日本くらいだ」というものでした。

立命館アジア太平洋大学非常勤教師(キャリア教育)、アソブロック株式会社、有現会社 ea 代表、ホンブロック発行人。“環境に変化と刺激のものづくり”をモットーに幅広く活動している。東京を会場に「団士郎家族理解ワークショップ」を隔月開催中(偶数月第二土曜日)、ぜひ来てね。<http://danasobu.com>

ナカジマ ヒロミ

大阪梅田で、CON カウンセリングオフィス中島をしています。ご相談に来られる方の中で、最も多い年齢層は、高校生や大学生とその家族です。不登校、情緒不安定、うつ状態などの夫婦、家族面接をしています。

この時期話題になるのは、来年進級できるかどうか、高校生は出席日数が気になることです。当オフィスにカウンセリングを受けに来られていると学校によっては公欠として認められるため、面接状況の経過報告書を高校に提出しています。

カワサキ フミヒコ

子どもの虹情報研修センター研究部長。出来上がった2冊の新刊を、ためつすがめつ眺めています。「日本の児童相談」はインタビュー集。「子ども虐待ソーシャルワーク」は、これまでの実践と思索のいわば現時点での集大成。特に後者は、“ほんづくり”のプロセスも楽しめました。読みかけの方から早くも「臨場感あふれ、読みやすい。ほんとうにおもしろい」との感想が届きました。皆さんも是非手にとってみてください。

ツルヤ シュイチ

年末、師走、いつもながらどんどん仕事が降ってきます。「幼稚園の先生は、こどもが2時に帰った後なにしてんの？」なんて良く聞かれますが、だいたい4時迄は送迎や庭そうじ、そのあとミーティングで5時、それから部屋の掃除や保育準備などにあてられます。行事先はだいたい8時か9時頃まで電灯が点いています。行事は毎月何かしらあるから、電灯が点いていない日のほうが少ないですね。園長は、そんなみんなと競い合って平均残業時間を伸ばしております。

カワギシ ユリコ

臨床心理士 《かうんせりんぐるうむ かかし》主宰 千歳市教育委員会スクールカウンセラー、石狩市こども相談センター臨床心理士・家庭相談員アドバイザー、千歳市はじめ五市の子育て検討会スーパーバイザー、札幌学院大学臨床心理学科非常勤講師他。久しぶりに風邪をひいてしまった。早いほうがよいと思って内科に行った。「のどが痛い。」と訴えるが、見た目は何ともないといわれた。「そんな筈はない!こんなに痛いんだから…。」と思いつつ、とりあえず総合感冒薬と咳止め(咳は出ていないが…)を買ってきた。風邪が悪くなるのは決まって週末。いつもは土日にビタミンCを多めに摂って、コンケルかゼナを飲み、休むと月曜日にはほぼ完治。今回は+風邪薬だから絶対大丈夫!(笑)

キムラアキコ

今年も一年の振り返りをする時期になりました。地方業界紙の連載執筆に始まり、対人援助学マガジンの執筆、私の生活の中に、自分の仕事の実践を言語化して伝える、という新たなメニューが加わりました。マガジンの多彩な執筆者の方々の連載に刺激されながら、人の内面や行動と言葉をつなぐ(表現する)面白さと奥深さを実感しています。私の生活の中の、この新たなメニューがいつまでも続くように、日々の出会いや出来事に心の入口を大きく開き、表現力豊かな執筆家になりたいと思っています。(近況じゃなくて、来年の抱負になりました)

アラキ アキコ

大阪在住、福岡県生まれ。大阪の精神科と島根県の生殖医療施設の心理カウンセラーを兼務 立命館グローバル・イノベーション研究機構客員研究員（研究テーマ：不妊臨床と家族援助）生殖医療対人援助研究会&島根家族研究会主宰 現在、島根県内で家族援助者のネットワークづくりに奔走中。

ミズノ スウ

石川県在住。1983年より自宅で週一回「紅茶の時間」をはじめ。「ともとの時間」など、コミュニケーションワークショップ水先案内人。

著書に、「雪の手みやげ」「ありがとうのパッチワーク」紅茶3部作として「まわれ、かざぐるま」「出逢いのタペストリー」「きもちは、言葉をさがしている」、共著に「ほめ言葉のシャワー」ほか。「紅茶なきもち」

<http://kimochi-tea.cocolog-nifty.com/blog/>

オオノ ムツミ

有限会社ネイティブビジョン 代表取締役

mutsumi@native-vision.com

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦799

屋久島観光センター 2F

TEL.0997-42-2013 FAX.0997-42-2916

<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>

<http://www.native-vision.com/>

フジ ノブコ

立命館大学大学院応用人間科学研究科教授、専門は臨床心理学、コミュニティ心理学、集団精神療法。大学の心理・教育相談センターの他、精神科クリニック、保健所でも臨床に携わっている。来年の3月立命館大学で開催する、日本集団精神療法学会第28回大会の準備で忙しい日々を過ごしている。

ナカムラ タダシ

私は立命館大学の教員です。学部は産業社会学部、大学院は応用人間科学研究科です。社会病理学、臨床社会学、社会臨床学を専攻しています。犯罪、非行、虐待、ドメスティック・バイオレンス等の加害者の脱暴力支援についていくつか現場で実践を重ねています。

さらに、暴力とも重なりますが、薬物、ギャンブルというアディクションにも関心があります。こうした逸脱行動を半ば不可避的にうみだしてしまう社会の様態（だから社会臨床）への尽きない興味があります。その深淵をみつめるために奇想天外な想像力を喚起させてくれる映画、演劇、小説等に大いなる関心があります。

キタムラ シンヤ

グローバル教育研究所代表取締役。日本社会臨床学会、日本教育カウンセリング学会、対人援助学会会員。現在、立命館大学大学院応用人間科学研究科に所属。2000年、京都府亀岡市に自らの研究フィールドとして「グローバル教育研究所」を設立、同年、学びの共同体「アウラ学びの森」、2005年には、フリースクール・通信制高校サポート校「知誠館」を開校し、自らの理論研究と教育実践を通して21世紀の教育モデルの実現をめざす。また、2005年より京都府教育委員会、2009年より京都府庁青少年課の研究委託事業を受託し、教育に関わるプロジェクトを行政と共に企画実行している。

ハヤカシ カズオ

現在、児童相談所長。児童相談現場での勤務経験が20年を超えてしまいました。心理判定員として出会っていた小中学生の子どもがすでに親になり、子育てをしている年齢になっています。相談ケースの保護者として、再会することが何度かあり、複雑な心境の今日この頃です。

オノエ アケヨ

国内で最初の米国ドラマセラピー学会公認ドラマセラピストとして、ドラマセラピーのセッションやトレーニングを種々の場で行い、その普及や教育にいそしむ。

ドラマセラピー教育・研究センター代表。2007年度より立命館大学大学院応用人間科学研究科教授も務める。治療セッションとしては、現在、アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症者の回復にむけて力を注いでいる。